

今日は2020年7月20日の海の日だ。24日から東京オリンピックということもあり、池袋もなにかざわついている。友人と待ち合わせなのだが、20分過ぎてもまだ来ない。外国人なので、迷子になっているのだろう。

東京オリンピックに合わせ、会場に近い銀座や有楽町界隈は、来日する外国人のために外国語の看板や地図を整備したらしい。しかし、池袋はまだ十分とはいえないようだ。

もっとも、日本人にも分かりにくいのが池袋だ。大学時代、地方から上京した友人から、渋谷や原宿、新宿と比べ、池袋の案内板は分かりにくいし、不親切だと良く聞かされた。

私は5歳まで鬼子母神に住み、その後も池袋をターミナルとする私鉄沿線に住んでいたこともあり、案内板がなくても池袋は分かる。

一度ものはためしということで、文句をいう友人と案内板に従って歩いてみたことがある。JRの池袋駅改札から東池袋方面に出ようと、地下街の案内板どおりに歩いていくと、自分の考えていた近道のルートとはまったく違った。いったん階段を上がって別の地下道へと引っ張りまわされ、なんと南池袋公園近くの出口に出てしまった。友人達の文句の方が正しいと思った。

今、待ち合わせをしている友人も同じ状況かも知れない。外国人だからなおさらだろう。

スマホがあるから大丈夫というわけでもない。地下道はGPS電波が届かない。地下までGPS電波を導く技術もあるそうだが、地上アンテナを設置する場所は賃料を取られたり、また高層ビルが密集していると屋上までアンテナを引くのに大変なお金がかかるそうで、現実的ではないようだ。

直感的なのは地下道ではなくて、やっぱり地上だ。

といったことを考えていたら、友人から着信だ。やはり地下で迷ったらしい。ここは直感的に分かる説明をしなくてはならない。私は次のように友人に言った。「とにかく東口に向かって」。「そして地上に出たら、LRTがあるから、そこで待っているよ」。

そう、池袋東口にはLRTの駅がある。フランスのストラスブールのように、大きな屋根の付いた格好良い駅がパルコ前にできたのだ。西口のように、新線池袋の建設に合わせて地下街を延ばすこともできたそうだが、技術の進歩で架線レスLRTというものができて、安く、早く、しかも誰にでも分かりやすい、ということでLRTが導入されたそうだ。

停車時間の長い停車場の下に非接触の充電設備があり、サンシャインや東池袋界隈まで架線なしで走行できる。しかも、パンタグラフも付いているから架線のある都電荒川線へも直通運転が可能で、バリヤフリー工事が終了した早稲田方面に直通運転している。この直通運転で、早稲田の学生など、東西線早稲田駅や副都心線西早稲田駅に流れていた人が、都電早稲田駅界隈に戻ってきたそうだ。

あ、友人が来た。「オウ、日本ニモLRTアルンダネ」。

今日は、彼とLRTに乗って早稲田まで行く予定だ。昨日、羽田空港から日本に入った彼は、既にモノレールや地下鉄、JR、それに東京駅で新幹線も見たそうだ。昨夜の電話では、「日本ノ鉄道、大量輸送過ギルネ。律儀ナ日本人ダカラ使イコナセテイルイケド」と彼は言っていた。

実は彼はストラスブール出身。日本のLRTはどのように彼には映るのか。早稲田に着いたら聞いてみよう。もっとも彼の表情を見ると、故郷と同じようなLRTを見て安心している様子だ。

フランスにも地下鉄はもちろんある。しかし、すべての都市にあるわけではなく、ストラスブールのようにLRTがうまくいった例も多い。日本でも富山LRTの成功から、他の都市にも広がりつつある。大量輸送を中心に考えていた日本の交通システムや街づくりに、そろそろ転換点が来ているように感じた。

今日も暑いが、紫外線をカットしてくれるガラスのせいか、LRTに乗ってしまえば快適だ。地下街すべてに冷房を入れるのは大変だろうが、LRTなら車両だけに冷房があれば良いからエコでもあるわけだ。

気が付くと、昔住んでいた鬼子母神駅だ。「下町風情が残っているところ」と友人に説明すると、「シタマチ、アタカイ心ノ交流ネ」。

考えてみれば、友人は日本のアニメがきっかけで日本文化を研究しているのだ。住んでいた私よりも詳しいかもしれない。